

足立区議会議員 工藤 てつや 様

足立区議会議員 6 番 へんみ 圭 二 印

一 般 質 問 通 告 書

今定例会に下記要旨の一般質問を行いたいので、会議規則第59条第2項の規定により質問通告書を提出します。

記

行政区分	質問の要旨
1 教育指導行政	<p>1 子どもたちの笑顔を創ろう</p> <p>来月は、足立区の各地で卒業式が行われる。母校の東加平小学校では、2年前から卒業生全員に「卒業記念特製ラーメン」が無料でプレゼントされている。</p> <p>小学校の近所にある「武蔵家 綾瀬」の店長さんから「長年お世話になっている地域の皆さんになにか恩返しをしたい」と話があり、相談した結果、「卒業生にラーメンをプレゼント」という企画になった。東加平小学校の卒業生は100人弱だが、卒業式後に80人ほどの卒業生がラーメンを味わった。</p> <p>「武蔵家 綾瀬」は常に行列ができる人気店なので、子どもたちの行列を整理するために手伝いに行くと、「友達とラーメンを食べに来るのは初めてで、すごく楽しい。」「別々の中学校になっても、また一緒にラーメンを食べに来ようって約束した。」などなど、笑顔の子どもたちから喜びの声が上がった。</p> <p>また、「誰がお金を出してくれているの?」と聞かれたので「店長さんだよ」と答えると、「店長さん、マジ神!」と現代っ子の可愛らしい反応が見られた。</p> <p>子どもがまんなかの社会を実現するために、こども家庭庁が設置された。社会のまんなかにも子どもを置くと、子どもの周りには地域の様々なお店があるはずである。</p> <p>(1) 東加平小学校のような卒業記念企画を他の小中学校にも広げられるように区が積極的に取り組んでもらいたいと思うが、見解を問う。</p> <p>(2) 子どもまんなか社会の実現に向けて、子どもと地域の商店でどのような繋がりを作っていくのか、区の取り組みと今後の方針を問う。</p>
	2月15日 午前・午後10時30分受付 質問時間 20分

行政区分	質問の要旨
2 都市建設行政	<p>絵本の寄贈など大企業からの支援は目にするが、「武蔵家 綾瀬」のように「子どもたちを支援したい」という商店は地域の中にまだまだ存在するはずである。</p> <p>(3) 教育委員会と産業経済部で連携を取り、学校や子どもたちを支援して下さる会社や商店を増やす努力をすべきと思うが、見解を問う。</p> <p>真夏の公園で子どもたちが水遊びをできるように設置されているじゃぶじゃぶ池は、熱さ指数が 31℃に達すると中止になるため、近年は中止が相次いでいる。また、水遊び用オムツの使用は不可である。</p> <p>(4) 従来から主張してきたが、ますます過酷になる猛暑を鑑みれば、子どもたちが夏を楽しめるように基準を見直すべきだがどうか。また、水遊び用オムツの使用許可が難しいのであれば、オムツが外れていなくても遊べる江北平成公園のシャワーやミストが出る水遊び場を他の地域にも設置していくべきだがどうか問う。</p> <p>(5) 併せて、じゃぶじゃぶ池は地域偏在があるが、設置基準と偏在解消に向けた方針を問う。</p> <p>バスケットリングのある公園は区内に 13 あるものの、竹ノ塚駅・西新井駅・梅島駅などの区の中央エリアにはバスケットリングがひとつもない。昨年はバスケットボール・ワールドカップが盛り上がり、NBA で活躍する日本人も増えている。</p> <p>(6) 足立区から未来のスターが誕生するように、バスケットボール環境の地域偏在を是正すべきと思うがどうか問う。</p> <p>(7) プレーパークを増やすためには、プレーリーダーの育成が必要である。プレーリーダー養成講座の受講回数を 3 回から 1 回に緩和したものの、プレーリーダーは若干の増加に留まっている。なかなか増えない原因はなにか、また、今後の方針を問う。</p> <p>(8) 近隣の葛飾区、北区、墨田区などでもプレーパークは積極的に推進されているが、なぜ他区に比べて足立区はプレーパークの環境整備が進まないのか、他の自治体のように区が積極的に関わってプレーパークを増やしていくべきだが、見解を問う。</p> <p>(9) プレーリーダーが増えない要因の一つとして、そもそもプレーパークの認知度が低いのではないか。プレーパークをさらに周知することが必要だと思うが、見解を問う。</p>

行政区分	質問の要旨
3 子ども家庭行政	<p>(10) 足立区少年団体連合協議会の皆さんのサポートのもと、ジュニアリーダーの育成を進めている。ジュニアリーダーの活動は大変有意義であると感じるが、ジュニアリーダークラブ修了後は地域のリーダーとしてどのような活動に繋がっているのか、修了生はどれぐらいの割合で地域貢献活動をしているのか問う。</p> <p>(11) 超高齢社会となり、地域ではますますジュニアリーダー経験者の力を必要としている。ジュニアリーダー経験者の声を聞いた上で、指導者クラブ以外でも、地域の担い手として大学生や社会人になってもジュニアリーダーとしての経験を活かすことができるようなシステムを構築すべきだがどうか問う。</p> <p>(12) また、ジュニアリーダー経験者にプレーリーダー養成講座の案内をしたり、高齢化している防災士の担い手になれるようにしてはどうか問う。</p>
4 学校運営行政	<p>給食費は無償化されたが、その他の隠れ教育費の軽減も進めていくべきだ。品川区では、書道用具や絵の具、副読本、道具箱など区立学校の学用品の完全無償化を行うと発表した。1人当たりの負担額は1万1000円から3万9000円で、予算額は5億4940万円である。</p> <p>(13) 学年によっても異なると思うが、足立区の場合、学用品は1人当たりいくらで、仮に、品川区のように学用品を完全無償化した場合、必要となる予算額はいくらか。また、可能な限り学用品の保護者負担を軽減すべきと思うが見解を問う。</p> <p>東綾瀬中学校を卒業して30年近くが経つが、我が家には卒業後に一度も使っていない彫刻刀が今もある。30年も誰にも使われない彫刻刀を見るたびにもったいないと感じる。</p> <p>(14) 彫刻刀のように学校で一括購入をして貸与する方が環境的にも良いと思われる学用品について、全区的に見直しをすべきではないか問う。また、千葉県や甲府市のように学用品をリユースする仕組みを構築すべきと思うがどうか問う。</p> <p>修学旅行費について、かつては就学援助の修学旅行費を大きく超えている学校があり、費用が高い学校と低い学校で2万円もの差が出ていることを指摘した。</p> <p>(15) その後、修学旅行は就学援助の修学旅行費で収まる金額で行われるようになったと思うが、現状を問う。</p> <p>(16) 就学援助の修学旅行費は60,910円であるが、宿泊施設・運転</p>

行政区分	質問の要旨
5 教育指導行政	<p>手などの人手不足や物価高騰により、旅行費用が高まっていると推測する。他区の就学援助の修学旅行費を調べてみると 65,000 円前後が多く、足立区の就学援助を見直す必要はないか問う。</p> <p>(17) 一方で、できるだけ保護者負担を減らしつつ質の高い修学旅行にするための努力が必要だが、区の取り組みについて問う。</p> <p>(18) かつて他の自治体では、修学旅行の見積もり合わせを行っていない学校が多いことが問題になった。全ての学校で見積もり合わせは必ず行うべきだが、現状を問う。</p> <p>昨年、自殺した小中高生は 507 人と過去最多の 2022 年 514 人に続き、2 年連続で 500 人を超えてしまった。こども家庭庁は子どもの自殺対策緊急プランをとりまとめ、「1 人 1 台端末の活用等により、自殺リスクの把握や適切な支援につなげるシステム活用」を掲げた。</p> <p>文科省は、健康観察・教育相談に端末を活用して早期発見につなげるための無償・有償システムやアンケート作成フォームを紹介している。例えば、子どもたちに自分のその時の心の状態を「晴れ」や「雨」など、天気に見立てて入力してもらう「心の天気」というアプリを活用している自治体もある。</p> <p>(19) 現在、足立区では、タブレット端末からホームページを介してインターネットの相談ができるようにしているが、1 人 1 台端末をさらに活用し、毎日のこころの健康観察・生活状況の把握を行い、子どもたちの小さな SOS を見逃さないシステムを整えるべきだがどうか。</p> <p>(20) 学校や仕事の悩み、メンタルヘルスの不調を抱えている若者の専門相談窓口「あだち若者サポートテラス(SODA)」を設置している。SODA の存在を高校生や大学生、若者に確実に届けることが重要であり、チラシを配布するだけでなく、例えば学校や図書館などのトイレの個室にチラシや二次元バーコードを貼るなど更なる周知の工夫をすべきではないか問う。</p>
6 都市建設行政	<p>バス路線の廃止や減便が相次いでいる。子どもを連れて外出することが難しくなっている中、外出促進を図る施策を進めるべきである。葛飾区では幼児二人乗り自転車の購入費を助成しており、6 年度からは対象者を「小学生未満の子どもを 2 人以上養育している世帯」から「小学生未満の子どもを 1 人以上養育している世帯」に拡大する。</p> <p>(21) SDGs の観点からも足立区も自転車購入費を助成し、子育て世代の移動に関する負担軽減や外出時の安全性の確保を進めるべきだが見解を問う。</p>

行政区分	質問の要旨
7 産業経済行政	<p>年々、夏の猛暑が過酷になっている中、子どもたちが外で遊ぶことも難しくなっている。真夏は公園で遊ばせられない状況であり、室内での遊び場を求める声は多い。葛飾区は、亀有のミッカやカナマチぷらっとなど駅近で子どもが遊べるスペースを設けており、大変好評である。</p> <p>(22) 今後、綾瀬の旧こども家庭支援センター跡地を活用する際には、ミッカやカナマチぷらっとのように、室内で子どもたちが遊びながら様々な体験をできる場を設けるべきと思うがどうか問う。</p> <p>(23) 跡地には子育てサロンの整備も予定されているが、一時預かりができるように計画していくべきだがどうか問う。</p> <p>(24) 金融教育の重要性については論を俟たない。学校での金融教育の充実を求める声はますます高まっていく中で、各年代でどのように金融教育を進めていくのか、区として独自の方針・計画を定めるべきだが、見解を問う。</p> <p>(25) 金融教育については外部の専門家を講師として招き、専門的な観点から子どもたちに指導をすべきである。西保木間小学校では、生命保険会社からプロのライフプランナーが 30 人も参加してライフプランニング授業が行われ、大変好評であった。専門家による金融教育を全区的に進めていくべきだが見解を問う。</p>
8 総務行政	<p>新たな選管委員に古野香織さんが就任されたことで、主権者教育を実践されている有識者としての視点や 20 代女性の視点といった従来の選挙管理委員には無かった視点からの活発な議論が展開されていくことを期待しているが、選挙管理委員会の定例会を傍聴していると、度々驚くことがある。例えば、令和 6 年第 1 回の定例会はわずか 10 分で終了、そのうち 5 分は今後のスケジュールについて話し合っている状況は、たとえ第 1 回であったとはいえ驚きを禁じ得ない。</p> <p>令和 5 年の選挙管理委員会の定例会は 24 回開催されているが、そのうち 17 回は 30 分以内に終了、5 回は 60 分以内に終了している。足立区の選挙管理委員の報酬は、委員が 23 万 2 千円、委員長が 29 万円。月に 2 回、わずか 30 分で終わる定例会に出席してこの報酬では、区民感覚とかけ離れていると言わざるを得ない。</p> <p>(26) 主権者教育の推進や若者の投票率向上策など、議論すべきことは山積している。選挙管理委員会の定例会は、年間を通じて議論するテーマを作り、目標設定をして、活発な議論が行われるように改善すべきだがどうか。また、報酬を日額制へ見直すべきだが、見解を問う。</p>

## 行政区分

## 質問の要旨

(27) 来年度から質の高い主権者教育を行うべく、主権者教育推進員を公募していることは素晴らしいと思うが、Facebook や X で主権者教育推進員の公募について周知していたのは、新たな選管委員の古野さんだけであった。あだち広報や各 SNS を活用して、広く周知すべきだと思うが見解を問う。

(28) また、主権者教育推進員の応募書類は、履歴書と作文であるが、どちらも自筆でなくてはならない。今時、自筆の履歴書を求める企業は避けられる風潮が強まっている中、履歴書・作文に自筆を求める理由、いかなる合理性があるのか問う。

(29) また、オンラインでの応募も認めるべきであったが、郵送もしくは持参での応募に限った理由を問う。なお、足立区役所全体に自筆を求める文化が未だに残っているのであれば、早急に改めるべきである。

(30) 明るい選挙ポスターコンクール表彰式では、素晴らしい絵を描いた多くの子どもたちが集まり、表彰されていた。しかし、一人ひとりが表彰状を受け取り、記念写真を撮影しただけで終わってしまった。それぞれがどのような想いでポスターを描いたのか発表したり、小学生から高校生までの幅広い年代で主権者教育についてグループディスカッションを行うなど、表彰状を渡すだけでなくもっと有意義な場にすべきと思うが見解を問う。

(31) 今後、若者の投票率を向上させるためには SNS の活用が不可欠である。足立区役所のアカウントではなく、足立区選挙管理委員会として X や Instagram など各 SNS のアカウントを作り、若者に向けた広報を展開すべきだが見解を問う。また、投票率向上に向けて区内の高校生や大学生など若者の選挙推進ボランティアを募るべきと思うが見解を問う。

(32) 選挙管理委員会の資料によれば、投票率の向上を図るために主権者教育推進員を採用するとのことだが、主権者教育のゴールをどのように設定しているのか問う。

主権者教育として、学校で模擬投票が行われている。模擬投票も大切であるが、参政権を行使する『方法』だけではなく、参政権を行使する『意義』も教えていくべきだ。「なにをやっても変わらない」ではなく、「自分たちでより良い学校に変えることができるんだ」という成功体験を積み重ねることが重要である。

(33) 足立区では令和 4 年度から本格的に校則の見直しを進めてきたが、校則を変える際に子どもたちにどんな学びが生まれたのか、学校

## 行政区分

## 質 問 の 要 旨

や教員にどのような変化があったのか、教育委員会として校則の見直しを進めた成果をどのように感じているのか問う。

(34) また、単に校則を変えるというだけではなく、対話を通じた合意形成がより良い社会づくりに繋がるということを伝えていくべきだと思いが見解を問う。

(35) 4人の教育委員は、学識経験者2名、校長経験者1名、保護者代表1名で構成されている。子どもや若者の声を反映できるように20代30代の教育委員を任命することを検討すべきと思いが見解を問う。

(36) 教育委員会、選挙管理委員会ともに定例会は小さな会議室で行われ、傍聴席も極めて少ない。例えば、中央館8階にある区議会の特別委員会室を活用して、区民の傍聴機会を増やすべきではないか問う。

(37) また、特別委員会室であれば、決算特別委員会、予算特別委員会のようにライブ配信も可能である。開かれた教育委員会、選挙管理委員会にしていくためには、子どもたちも視聴できるように定例会のネット配信を行っていくべきだが見解を問う。

(38) また、定例会を平日だけではなく土日に開催したり、区民の集まりやすい場所で定例会を開催したりと、教育委員や選管委員が子どもたちや保護者の意見を直接聞けるような場を設けていくべきではないか問う。

## 9 政策経営行政

## 2 エリアデザインについて

## (1) 千住エリアデザインについて

①関屋公園及び千住関屋ポンプ所上部の整備について、公園の整備は地域の意向を伺いながら設計を進めるとのことだが、いつまでに計画をまとめるのか、地域の子どもたちなどより多くの意見を聴取すべきだがどうか問う。

②アメージングスクエアのあった千住大川端地区には、スケートパークがあり、東京オリンピックで初代金メダリストになった堀米雄斗さんの原点でもあった。スケーターやBMXライダーにとって聖地のような場所であったという歴史を鑑み、公園整備の中でアーバンスポーツについても検討できないか見解を問う。

## (2) 竹の塚エリアデザインについて

①高架下商業施設のI街区の開業が5月に迫っている。店舗の情報が

行政区分	質問の要旨
	<p>公表されるのはいつか問う。</p> <p>②ミントポのオープンから一年が経過したが、最近ではミントポでのイベント開催についての報告も無く、まちづくりラボ・プロジェクトの基本協定が結ばれた際に想定していたように順調に進んでいるのか問う。</p> <p>③まちづくりに関心がある人材の発掘は進んでいるのか、エリアデザイン計画策定に向けた情報発信やまちづくりに関するニーズの把握にどの程度繋がっているのか、ミントポの今後の方針を問う。</p> <p>(3) 綾瀬エリアデザインについて</p> <p>旧こども家庭支援センター跡地の活用については、東綾瀬中学校の後に東渕江小学校が仮設校舎を利用することとなり、新たな施設の開設が遅れることとなった。</p> <p>2月13日の綾瀬駅周辺地区まちづくり協議会で概ね了承を得られたとのことだが、その出席者は約半分。当日、まちづくり協議会に出席しなかった方の声は「区は最初から東渕江小学校が仮設校舎を使うことを決めていたのに、綾瀬住民の声を聞いたというポーズを取るために何度もまちづくり協議会を開いているだけだ。あまりにも酷い。」と大変厳しいものであった。</p> <p>①地域の信頼を失ってしまった大きな要因の一つは、仮設校舎の再利用案について綾瀬地域へ全く説明せずに、保護者向け説明会を開いたことである。仮設校舎を再利用する可能性について、まずは綾瀬地域に諮ってから話を進めるべきであり、なぜこのような初動ミスを起こしたのか、謝罪を求めるのではなく理由を問う。</p> <p>②旧こども家庭支援センターの活用方針が策定され、すでに住民説明会も開催されていることについて、12月に4回開かれた保護者向け説明会で全く説明が無かった。説明すべき重要な事を隠しているように感じられ、つい保護者説明会の場で「旧こども家庭支援センターの活用方針が策定されていることを説明すべき」と指摘をしたが、このような区の姿勢が「最初から決まっていたんだろう」という綾瀬地域の不信感に繋がってしまっている。どのような考えで保護者説明会で説明をしなかったのか問う。</p> <p>③東渕江小学校が仮設校舎を再利用することについて、まちづくり協議会だけではなく、広く綾瀬地域の住民へ説明すべきだが、今後の方針を問う。</p> <p>④綾瀬地域に大きな禍根を残し、旧こども家庭支援センターの跡地活</p>



6 番 へんみ 圭 二	
行 政 区 分	質 問 の 要 旨
	<p>用が遅れることになった。跡地活用では、綾瀬地域の住民が「雨降って地固まる」と思えるように、長年の願いである図書館を設置するなど従来の計画以上に充実した施設にすべきだが、見解を問う。</p> <p>⑤現在、西口周辺のまちづくりについて「あやセンター ぐるぐる」で意見を募っている。綾瀬エリアデザインには、綾瀬川沿いの暗いイメージを改善するとしているが、どのような方法でイメージ改善を図ろうとしているのか見解を問う。</p> <p>⑥以前から、綺麗になった綾瀬川を水辺空間として活用すべきと提案しているが、綾瀬川をまちづくりの資産として活用できるように東京都や首都高など関係機関と協議することを求めるが、見解を問う。</p> <p>⑦東京都が綾瀬新橋の架け替えに着手したが、住民説明会は何年も開催されていない。説明会を開催するよう東京都に強く働きかけるべきだが見解を問う。</p>